

第 5 学 年 総 合 学 習 指 導 案

5 年 2 組 指 導 者 寺 内 健

単 元 5 年 2 組 の 大 凧 を 揚 げ よ う ！ み ん な の 願 い を の せ て

1 本単元で求める「学びを実感する子どもの姿」

- ① 「大凧をつくって揚げてみたい」という思いをもち、仲間や専門家にかかわりながら小凧や大凧作りに取り組もうとしている
- ② 大凧について調べたり、専門家とかかわったりしながら、大凧作りに取り組んでいる
- ③ 「大凧をつくって揚げるためにはどうすればよいのか」という課題の解決に向けて、仲間と考えを伝え合っている
- ④ 仲間や専門家と取り組んだ凧作りを振り返りながら、自己の変容に気付いている

2 本単元について

本学級の子どもたちは、前期の「心でつながろう！これからの日本と中国」の学習で、仲間との話し合いや留学生との対話をもとに、自分とは異なる考えにふれながら、これからの両国の協調について見方を広げたり深めたりしてきた。このような子どもたちが、仲間や専門家とかかわりながら、自分たちの願いをこめた大凧作りに取り組む。このことは、仲間や専門家の思いや願いにふれ、凧作りに協力して取り組む楽しさや喜びを感じることにつながるであろう。

本単元は、仲間や専門家とかかわりながら、自分たちの願いをこめた大凧の完成をめざしていく学習である。子どもたちは、仲間と試行錯誤しながら「凧が揚がる要素」を探ったり、「大凧にこめる願い」を仲間と話し合ったりしていく。その際、体験後の気付きや調べた情報を仲間と整理・分析できるようにしたい。そうすることで、自分の見方を広げたり深めたりしながら、協力して5年2組の大凧の完成をめざしていくことができると考える。

そこで以下のような支援を具体化し、求める子どもの姿の実現を図りたい。

- 単元の初めに、全員で大凧を揚げる活動を仕組む。そうすることで、生活経験に違いのある子どもたちが共通の思いをもって大凧作りに取り組むことができるようにする。
- 全国各地で作られている凧の情報を紹介カードにまとめるよう促し、自由に見ることができるようにする。そうすることで、凧に関する情報を共有し、凧作りにいかすことができるようにする。
- 大凧にこめる願いについて話し合う際には、小グループでアイデアを出し合い、付箋を使って分類・整理するよう促す。そうすることで、出し合ったアイデアを焦点化し、合意形成をはかることができるようにする。
- 小凧や大凧を作ったり揚げたりした後、振り返りを交流させる。その際、仲間や専門家とのかかわりについて記述している子どもを見取り、意図的指名をする。そうすることで、協力して凧作りに取り組む楽しさや喜びを共有することができるようにする。

3 目 標

- 仲間や専門家と共に試行錯誤しながら、自分たちの願いをこめた大凧を作ることができるようにする。

- 小凧や大凧が高く安定して揚がるよう仲間や専門家と繰り返しかかわることをとおして、凧作りに協力して取り組む楽しさや喜びを感じることができるようにする。

4 評価規準

関心・意欲・態度(関)	学び方(学)	見方・考え方(見)
○仲間や専門家とかかわりながら試行錯誤して、自分たちの願いをこめた凧作りに取り組んでいる。	○小凧作りの中で糸目糸などを調整しながら凧が揚がる要素を見付け、大凧作りにいかしている。 ○凧の作り方や凧にこめる願いについての情報を、専門家の話や資料から見付けている。	○大凧の完成に向けて、仲間や専門家と協力しながら凧作りに取り組むことで、協力して取り組む楽しさや喜びに気付いている。

5 指導計画 105M (35時間) が本時

学習活動	子どもの意識
第1次 凧作りに関心をもち、小凧を作る 33M(11時間)	
学習内容 ・凧作りへの関心(関) ・仲間や専門家との小凧作り(学)	
□大凧作りに興味をもつ (3M)	・先生が日本各地の大凧揚げの写真を見せてくれたよ。あんなに大きな凧が揚がるのか。ぼくたちもやってみたいな。山口市に凧の会があるのだから。大凧を揚げられるか電話で尋ねてみよう。
□凧の会の人たちと大凧を揚げる (9M)	・やったあ、一緒に揚げられるそうだよ。みんなできらら浜へ行って揚げるのだね。すごい、凧の会の人たちの大凧が空高く揚がったよ。今まで揚げた凧と手応えが全然違うね。
□大凧揚げを振り返り、小凧作りの準備をする (6M)	・凧糸は太くて、引っ張られる力が強かったね。迫力があつたね。ぼくたちも大凧を作って揚げたいな。でも、ぼくたちにも作れるのかな。きらら浜で揚げた大凧は5mもあって、この教室で作ることは難しいよ。自分たちでも作れる大凧を調べてみよう。凧の本には、骨組や糸目糸の少ない六角凧が作りやすいと書いてあるよ。試しに小さな凧を作ってみよう。
□仲間と小凧を作って揚げる (6M)	・骨組みを作る前に、凧のデザインを考えなければいけないね。どんな絵を描こうかな。僕はサッカーボールの絵を描いたよ。本に書いてあるとおりに竹ひごを組み合わせて作ったよ。よし、揚げてみよう。ぼくの凧は右に傾くよ。□君の凧はくるくる回っているね。どうしたらよいのかな。凧の会の藤井さんに聞いてみよう。
□専門家と一緒に小凧を揚げ、気付きを交流する (9M)	・凧の会の藤井さんの言うとおりに横骨を貼り直すと傾かなくなったよ。□君の凧は「しっぽ」を凧に付けたら揚がるようになったよ。自分が作った凧が揚がるとうれしいな。小凧作りで気付いたことを交流しよう。凧の形を左右対称にするとよかったよ。凧がないと凧は落ちてしまったね。□君は「しっぽ」を付けると安定したと言っているね。△君は、凧の強さに合わせて糸目の中心を変えると言っていたよ。苦労したけれど凧が揚がって嬉しかったよ。藤井さんは凧作りの喜びを多くの人に感じてもらいたいのだから。友達や藤井さんのおかげで凧の作り方が分かったね。よし、次は大凧作りに挑戦しよう。

第2次 大凧を作って揚げる

63M(21時間)

学習内容 ・大凧作りへの関心(関) ・仲間や専門家との大凧揚げ(学) ・凧についての情報収集(学)

<p>□大凧について調べる (9M)</p>	<p>・5年2組で一つ、小凧と同じ形の大きな六角凧を作るよ。骨組みを作る前に絵を描くのだったね。凧の会の人たちと揚げた大凧には絵が描いてあったね。あの絵には何か意味があるのかな。藤井さんに聞いてみよう。藤井さんが作った凧に描かれた龍には、地域の発展への願いがこめられているそうだよ。ぼくたちもどんな絵を描くか考えよう。日本各地の凧の絵を調べてみたらどうかな。調べたことを紹介カードにまとめていくよ。</p>
<p>□大凧について調べたことを交流する (3M)</p>	<p>・ぼくは「東近江大凧」を調べてみたよ。向かい合う動物の絵には人との良縁、漢字には作った人の願いがこめられているのだから。神奈川県「相模大凧」には、若者の意思や希望が願いとしてこめられているそうだよ。山口にも有名な大凧があったよ。「鬼楊子」といって子どもの成長を願って作られる凧だそうだよ。日本各地には様々な願いがこめられた大凧があるのだから。ぼくたちも大凧に願いをこめて揚げようよ。どんな願いを5年2組の大凧にこめようかな。みんなで話し合ってみよう。</p>
<p>□大凧にこめる願いを話し合う (3M)</p>	<p>・B君は、5年2組への願いをこめたいと言っているよ。5年2組に、どんな願いをこめたらよいか。学級目標にある「学び合い」をテーマにしたらどうだろう。みんなでもっといい学級にしていこうと思える絵にしたいな。次の時間はどうやって絵に表していくか話し合っていこう。</p>
<p>□大凧に描く絵や文字を話し合う (3M)</p>	<p>・滋賀県の「東近江大凧」を参考にしよう。話し合って、学級目標の「学び合い」を「学」という漢字にこめると決まったよ。絵はみんなが笑顔になっている34人の顔を描くよ。次の時間からは絵を描いて、大凧を組み立てよう。</p>
<p>□計画を立て、絵を描いたり、凧を組み立てたりする (21M)</p>	<p>・描く絵が決まったね。班ごとに描いた絵をつなげて一つの絵にしよう。色は濃く塗ろう。絵が完成したよ。骨組を紙に貼るよ。糸目も付けよう。やっと大凧が完成したね。運動場で揚げよう。</p>
<p>□大凧の試験飛行をする (12M)</p>	<p>・真っ直ぐ揚がるようになったよ。でも、すぐに落ちるね。もっと風の強いきらら浜で揚げたらどうかな。凧の会の人たちにも大凧を見てもらおう。早く揚げたいな。</p>
<p>□大凧を揚げる (12M)</p>	<p>・きらら浜で揚げるよ。風が強くて安定して揚がらない。藤井さんと一緒に調整したよ。「しっぽ」をつけて糸目の調整をすると揚がった。みんなで協力して作った大凧が高く揚がったね。藤井さんは凧が揚がる喜びを感じてくれてうれしいと言ってくれたね。</p>

第3次 学習を振り返る

9M(3時間)

学習内容 ・仲間や専門家との協力のおさへの気づき(見)

<p>□活動を振り返る (3M)</p>	<p>・苦労したけれど、友達と協力したから大凧が完成できたのだと思うよ。凧の会の人にもお世話になったね。感謝の手紙を書こう。</p>
<p>□凧の会の人たちへ手紙を書く (6M)</p>	<p>・「凧の会の皆様のおかげで、凧の作り方や揚げ方が分かりました。ぼくたちの願いをこめた大凧が揚がってうれしかったです。」</p>

6 本時案 【平成27年11月27日 10:00~10:45 5年2組教室】

(1) ねらい 大凧にこめる願いについて話し合うことをとおして、絵や文字で願いを表すことへの意欲を高めることができるようにする。

(2) 学習過程

学習活動／子どもの意識	支 援
<p>① 自分が考えた大凧にこめる願いを分類・整理する (15分)</p> <p>学習内容 ・大凧にこめる願いについての関心(関) ・願いの交流(学)</p> <ul style="list-style-type: none"> どんな願いをこめるかみんなで考えるよ。 こめたい願いを付箋にどんどん書いていこう。 僕は山口市の発展への願いをこめたらいいと思うよ。藤井さんの凧には地域の発展への願いがこめられていたからね。 <p>A 家族への願いをこめたらどうかな。「鬼楊子」には子どもの成長への願いがこめられていたよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ぼくは附属小学校の発展への願いをこめたらいいと思うよ。日本一の学校をめざして、学校の発展を願って作りたいな。 <p>B 5年2組への願いをこめたらどうかな。これからも仲良く楽しく過ごせるようにと願いを凧にこめたらどうだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなの書いた付箋を整理すると「山口市」「家族」「附属小」「5年2組」に分けられたよ。この中から何へ願いをこめるか話し合おう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○導入場面において、前時までに作成した紹介カードを提示する。そうすることで、大凧にこめる願いについて、見通しをもって考えることができるようにする。 ○大凧にこめる願いについて話し合う際には、小グループでアイデアを出し合い、付箋を使って分類・整理するよう促す。そうすることで、出し合ったアイデアを焦点化し、合意形成をはかることができるようにする。 ○合意形成された願いにかかわる発言に対し、それはどんな姿なのかを問い返す。そうすることで、大凧にこめる願いを絵や文字で想像しながら考えることができるようにする。 ○個々の振り返りから、大凧作りへの意欲が高まっている子どもを見取り、発言するよう促す。そうすることで、次時からの活動の見通しをもつことができるようにする。
<p>② 大凧にこめたい願いについて話し合う (25分)</p> <p>学習内容 ・収集した情報をもとにした凧にこめる願いの交流(学)</p> <p>A 家族へ願いをこめたいな。感謝の気持ちを伝えたいからね。</p> <ul style="list-style-type: none"> 附属小学校へ願いをこめるのはどうだろう。もっと附属小学校をよくしていきたいからね。 <p>B 5年2組でつくる大凧なのだから5年2組にこめたいな。</p> <ul style="list-style-type: none"> そうだね。6年生になるまでの数ヶ月間、明るく楽しい学級になるようにと願いをこめたいな。 <p>A B君の話聞いて、ぼくも5年2組に願いをこめたくなったよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 5年2組に、どんな願いをこめようか。 <p>C 「学び合える」学級になるようにと願いをこめたらどうかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級目標の言葉だね。ぼくたちが大事にしている言葉だから「学び合える5年2組になるように」と願いをこめたいよ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>「学び合える5年2組」はどんな姿なのかな</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> みんなが笑顔になっている姿だと思うよ。 みんなで助け合って、絆を深めている姿だと思うよ。 <p>C それならみんなで手をつないで輪を作っている絵はどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 笑顔になっている全員の顔を書こうよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○合意形成された願いにかかわる発言に対し、それはどんな姿なのかを問い返す。そうすることで、大凧にこめる願いを絵や文字で想像しながら考えることができるようにする。 ○個々の振り返りから、大凧作りへの意欲が高まっている子どもを見取り、発言するよう促す。そうすることで、次時からの活動の見通しをもつことができるようにする。
<p>③ 本時の学習を振り返る (5分)</p> <p>学習内容 ・自分たちの願いをこめた大凧作りへの関心(関)</p> <p>B みんなで5年2組への願いをこめながら絵を考えたいね。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の時間は、どうやって「学び合える5年2組」を絵に表すかについて話し合いたいね。 	<ul style="list-style-type: none"> ○合意形成された願いにかかわる発言に対し、それはどんな姿なのかを問い返す。そうすることで、大凧にこめる願いを絵や文字で想像しながら考えることができるようにする。 ○個々の振り返りから、大凧作りへの意欲が高まっている子どもを見取り、発言するよう促す。そうすることで、次時からの活動の見通しをもつことができるようにする。



7 考察

1 今年度の取組の成果

総合学習における思考力とは、課題の解決に向けて自分の考えを構築する過程において、自覚的に、そして適切に思考できる力と捉えた。子どもたちは、課題の解決に向けて収集した情報を仲間とともに整理・分析しながら、情報を比較・分類したり、関連づけたりして、繰り返し思考していく。その中で、子どもたちは自分の考えに対して適切な理由づけをし、状況に応じて課題解決の方法を判断することができるようになる考えた。このような、思考する子どもの姿を想定し、今年度は、「多角的な見方によって自己の生き方を吟味するための支援の工夫」を主張点に掲げ、以下の2つの視点で支援を行い、実践を行った。

① 協同的な課題設定

② 協同的な整理・分析

単元名：『5年2組の大凧を揚げよう！みんなの願いをのせて』

① 協同的な課題設定について

凧の会の人たちが作った大凧を揚げさせてもらう共通体験を仕組み、体験から感じたことを仲間同士で共有する場を設けた。

以下は体験からの感想である。下線は、凧作りに興味を示す子どもの思いである。

M 児 今日凧の会の人たちが作った大凧を揚げました。最初は「大凧なんて普通の凧と同じでしょ？」と思っていたら、ロープがとても重くて、何か普通の凧とは違う気がしました。私の大凧揚げ後の気持ちは「大凧すごい！」に変わりました。

Y 児 大凧の作り方から揚げ方まで教えてもらったので、クラスでもできると思いました。また、質問もたくさんすることができたので楽しかったです。次は自分たちが作ってもっとたくさん揚げたいです。

交流する際、教師は、M 児や Y 児のような凧作りに前向きな思いや、「どうやったら作ることができるのかな」「なぜ凧は揚がるのだろうか」というような疑問を教師が板書上にまとめた。そうすると、これまで凧に興味を示さなかった子どもから、「小さい凧を作ってその疑問を確かめてみよう」と意見が出され、子どもたちが課題を設定したのである。このように、共通体験を単元の初めに仕組み、前向きな思いや疑問を共有する場を設けることは、生活経験に違いがある子どもたちが課題を設定する際、有効な支援であった。

② 協同的な整理・分析について

子どもたちが小凧揚げで気づいたことや凧が揚がるための方法を交流する場を設定し、表にまとめた。

凧揚げの気づきの交流では、下記のような子どもの考えを交流させ、表にまとめていった。

下線は凧が揚がる方法についての気づきである。

M 児 1 回目の凧揚げよりも、最初うまくいなくて悲しかったけれど、がんばりました。

揚げ糸は、最初は少し長めにしてだんだんと出すとよいと思いました。

Y 児 工夫することによって、揚がる高さや長さなどが変わってくることがあったのでびっ

くりしました。Tくんのが、あまり揚がらなかったのだけれど、糸目の中心の位置を上げただけで、揚がったのですごいと思いました。

M 児や Y 児がもった気づきを交流する場を、3回の凧揚げ後、専門家との凧揚げ後に設け、表にまとめていった。そうすることで、問題点に対する解決法が生まれ、それらを子ども同士で繰り返し試しながら、子どもたちは凧が揚がる方法に気付いていったのである。このように、各自が収集した情報を交流し、考えをまとめていくことは、課題解決の方法を見出すために有効な支援であった。



気づきを交流する子ども

問題点	解決法
クルクル回る	左右のバネを反対向きに巻く
よくおちくしやう	しほを強くひく
持ちつらわりのとでさかい?	揚げる糸を長くして揚げる
大風がよむめた、(向)風が、	→ 大風... 晴れ、ちよいといい風
やがて、強風は?	→ 風が強い時は、引く
糸目糸し揚げる糸は?	→ 糸はかやりの糸がいい、太くはない
揚げる糸の長さのしほ?	→ 風が強い時は、引く
風が強い、揚げる糸の長さ?	→ あまりかまれない(糸)のしほがいい
糸目糸の長さのしほ?	→ 糸目糸の長さのしほは、揚げる糸の長さのしほより、長い方がいい
糸目糸の長さのしほ?	→ 糸目糸の長さのしほは、揚げる糸の長さのしほより、短い方がいい
糸目糸の長さのしほ?	→ 糸目糸の長さのしほは、揚げる糸の長さのしほより、太くはない方がいい
糸目糸の長さのしほ?	→ 糸目糸の長さのしほは、揚げる糸の長さのしほより、太くはない方がいい

凧が揚がる方法をまとめた表

2 支援に対する課題と来年度の取組

今年度の取組をふまえて、来年度は以下のような取組を考えている。

① 子どもの思考に沿って「壁」を想定し、単元を構成していくこと

1つ目の支援の課題は、小凧揚げから大凧作りに子どもの意識がつながりにくかったことである。子どもの思考の流れに沿って単元計画を行ったつもりであったが、結果的に小凧揚げから大凧作りにつながりにくく、教師が次の活動を提示した。今回よりもさらに子どもの思考に沿って「壁」を想定しなければならない。例えば、大凧作りをしていく中で、なぜ揚がらないのかと「壁」にぶつかり、小凧を作って揚がる方法を探るという子どもの思考も考えられる。来年度は、より問題解決的になるよう、子どもの思考に沿った「壁」を想定し、単元を構成していきたい。

② 他教科と連携すること

2つ目の支援の課題は、教師主導の整理・分析であったことである。主体的に解決していくには、自分の考えや調べた情報を仲間と整理・分析するよさを感じる事が大切だと考える。そのためには、自分の考えや情報を総合学習だけではなく、他教科でも問題解決的に学習を仕組むことが考えられる。そうすることで、仲間の考えの違いに気づき、新たな考えが生まれ、よりよい解決法が見出される。仲間と考えや情報を整理・分析するよさを感じ、他教科で学んだ学習方法を総合学習にいかせるよう支援をしていきたい。